資料9-1

ラジオマイクのVHF利用とUHF帯の利点

周波数利用の変遷

1950年代　33～75 MHz

補聴援助用ラジオマイクと関わりが深く、
ラジオマイクも同じ帯域を利用した。

その後　173～216 MHzへ

補聴援助用の移行に伴い、ラジオマイクも
200 MHz帯のVHFやUHFへ利用を拡大した。※

普及期　700～900 MHz帯など

国ごとの専用帯に加え、VHF・UHFのテレビ
放送に干渉しない周波数を利用してきた。※

地デジ整備後　各国で周波数を再編

携帯電話向けの再配分で利用帯域が変化。
専用帯を縮小し現在もテレビ帯の空き周波数と共用。

UHF帯が選ばれる理由

多チャンネルを組みやすい

VHFより広い候補帯域を確保しやすく、
多数のマイクの周波数計画に適する。

機器を小型化しやすい

波長が短く、アンテナを短くできる。
高周波フィルタなども小型化しやすい。

離れた場所で再利用しやすい

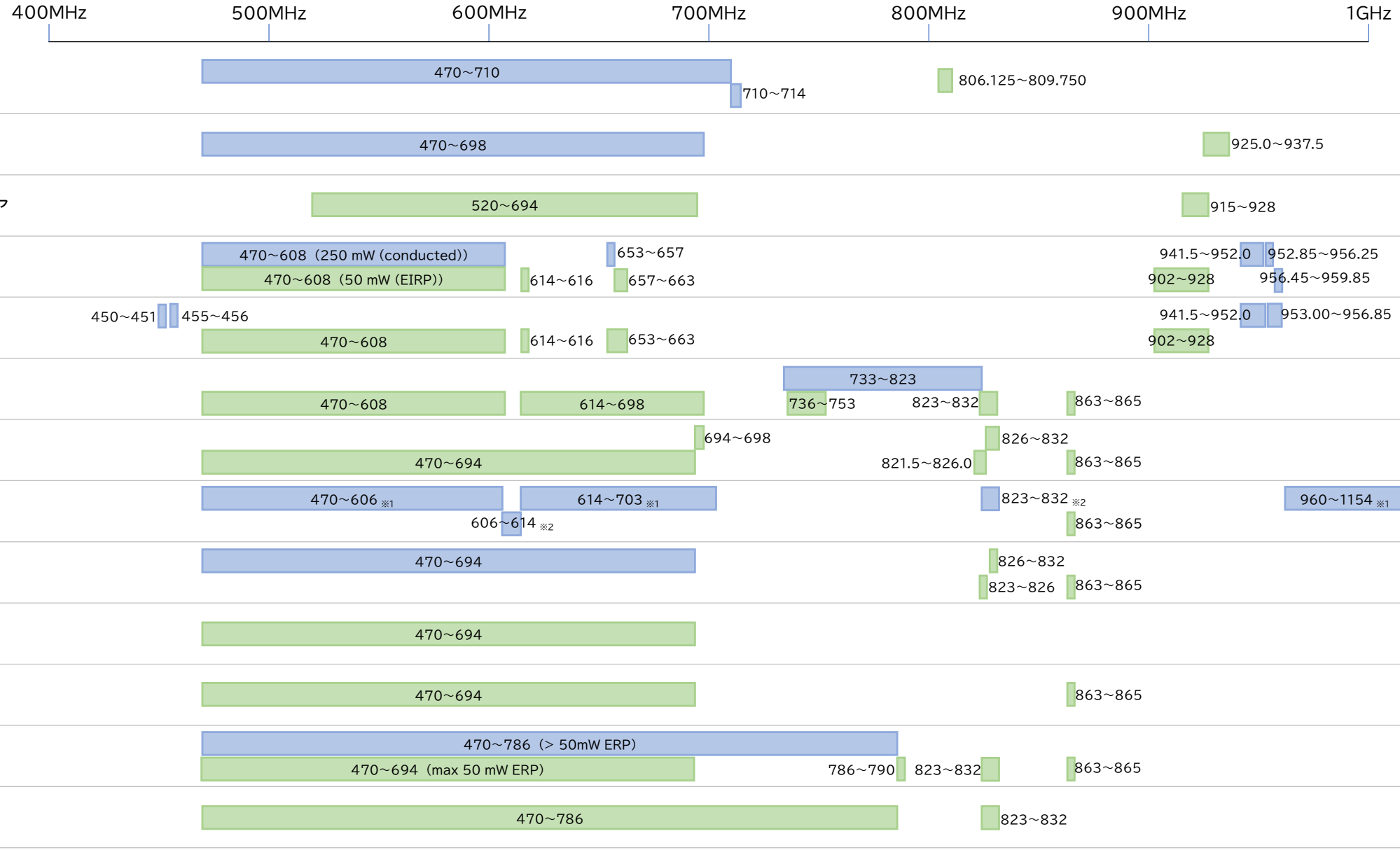
回折が小さく、距離や遮蔽物を利用した
周波数の繰り返し利用を計画しやすい。

VHF帯の利用は、古くから使用されており、地デジ再編に伴って利用が始まったものではない。
利用周波数帯および周波数再編の時期は国ごとに異なる。多くの国では470～698MHz帯がワイヤレスマイク用途に利用されているものの、世界共通の周波数帯は存在しない。
英国では703～790MHz帯が2020年5月までに、米国では600MHz帯の一部が2020年7月までに他システムへ移行され、当該周波数帯は新たな無線システムに利用されている。
日本における補聴援助用ラジオマイクは、75MHz帯および169MHz帯で使用されている。

NHK Technologies

5.1 各国のワイヤレスマイクの周波数使用状況①(470MHz~1GHz)

参考



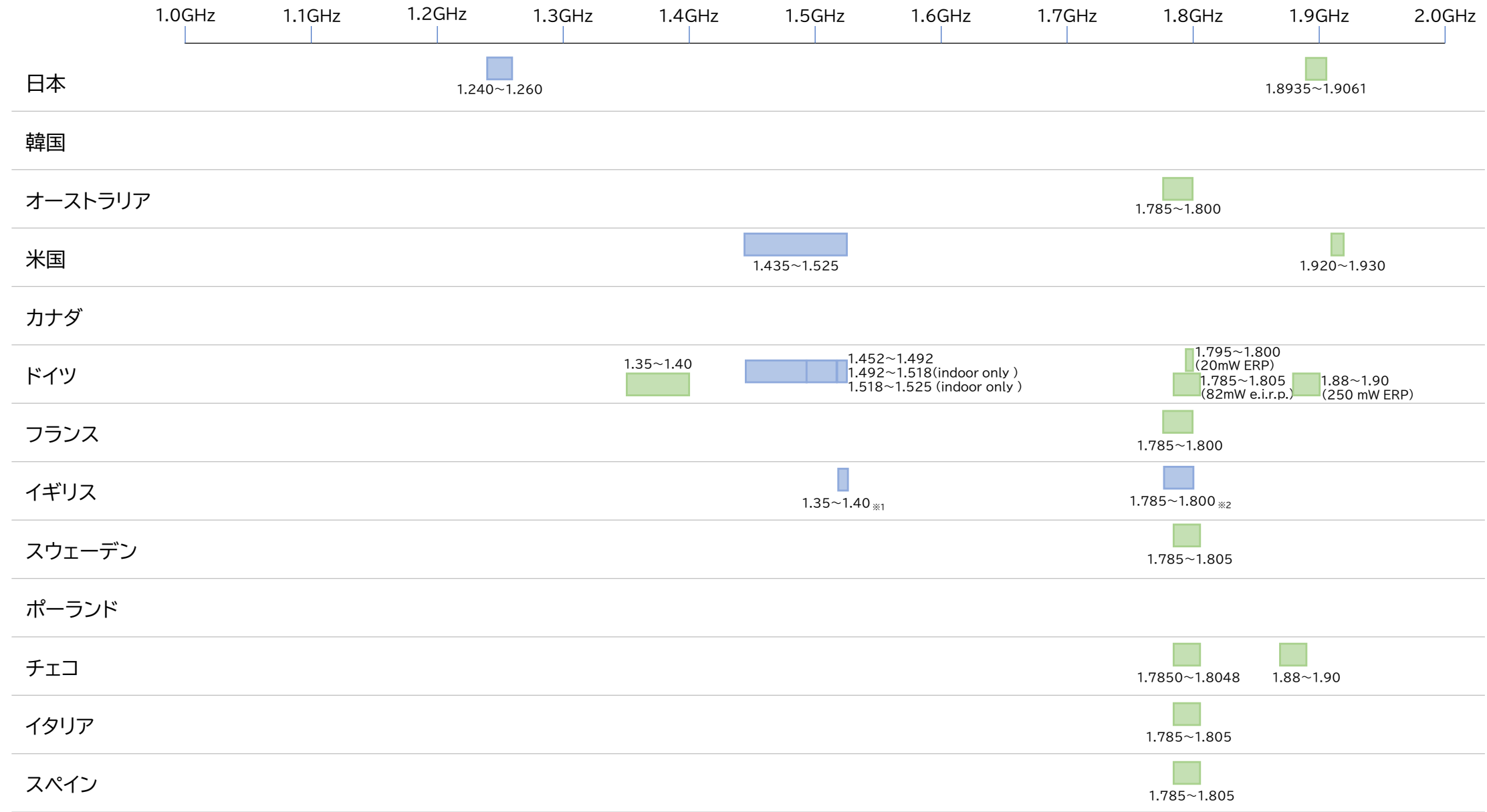
免許必要　免許不要

※1 Standard (coordinated) Licence
※2 'Shared' License required – annual renewal

【APWPT】Frequencies for wireless microphones – Revision September 2025 –を参照に作成

5．2 各国のワイヤレスマイクの周波数使用状況②(1GHz～2GHz)

参考



免許必要　免許不要

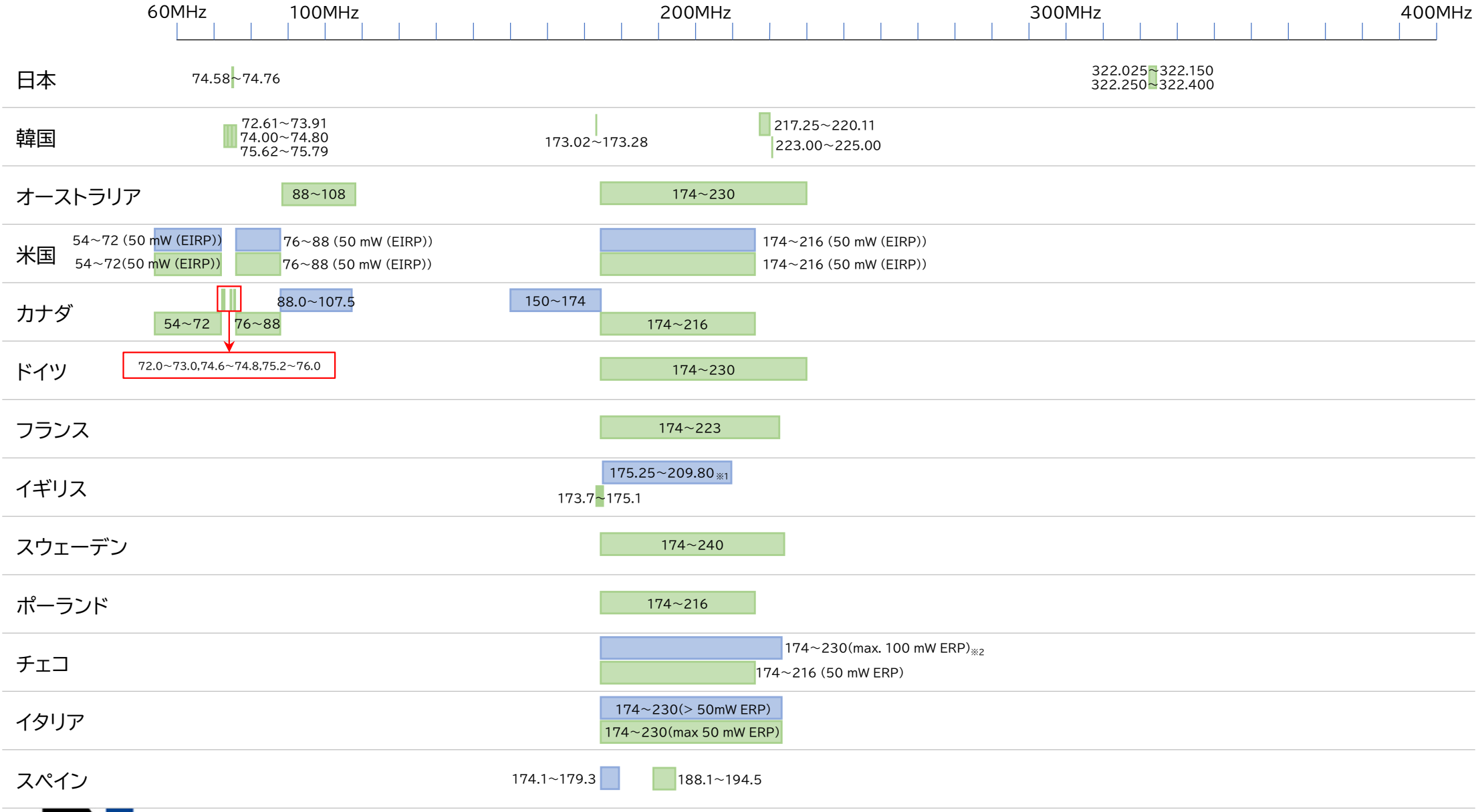
※1 Standard (coordinated) Licence
※2 'Shared' License required – annual renewal

【APWPT】Frequencies for wireless microphones – Revision September 2025 –を参照に作成

NHK Technologies

5．3 各国のワイヤレスマイクの周波数使用状況③(60MHz～400MHz)

参考



免許必要　免許不要

※1 'Shared' License required – annual renewal
※2 174 - 216 MHz, max. 50 mW ERP

【APWPT】Frequencies for wireless microphones – Revision September 2025 –を参照に作成

NHK Technologies